

## 1 題 材 手縫い名人になろう！ ～マイ巾着袋に思いをつめて～

## 2 題材の目標

- (1) 製作に必要な用具の安全な取り扱い方や、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどの縫い方について理解し、目的に応じた縫い方をすることができる。 (知識・技能)
- (2) 製作に必要な材料や手順、縫い方を考え、名前を刺繍するなど工夫して製作することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- (3) 作品の製作を通して、手縫いのよさやもの作りの楽しさに気づき、日常生活に生かそうとしている。 (学びに向かう力・人間力)

## 3 題材について

5年生から家庭科の学習が始まるにあたり、アンケートを行った。『家庭科の学習は楽しみですか』という問いに対して、本学級の児童37名全員が「とても楽しみ」「わりと楽しみ」と答え、家庭科への意欲が高いことがわかる。また、『あなたは家で手ぬいやミシンを使ってものを作りますか』という問いでは、11名が「よくしている」「わりとしている」と答えた。日頃の生活でソーイングに興味をもち、関心が高い児童もいるということがわかる。本題材を通して、裁縫用具の使い方やさまざまな縫い方などの技能を身につけることで、自分にもできるのだという自信をもち、手縫いのよさやもの作りの楽しさを感じてほしい。

本題材は裁縫用具の安全な取り扱い方や基礎的な技能を身につけ、作品を製作することをねらいとしている。初めて経験する児童も、手縫いの経験のある児童も、基礎的な技能を身につけさせ、生活の中で生かせるようにしたいと考える。作品の製作を通して手縫いのよさを味わわせたいと考える。

まず、初めて経験する児童のソーイングへの興味や関心を高めることから始めたい。児童が調査隊となり、裁縫セットの中にどんな道具が入っているか調べる。児童を調査隊と呼ぶことで、一つ一つの道具をじっくり観察することができるだろう。そして、身の回りの縫い物を探したり、手縫いの経験がある児童が製作した作品を紹介したりする活動を取り入れる。アンケートによると、手縫いの経験がある児童は巾着袋を作ったことがある子が多かった。給食袋や体育館シューズ入れ、リコーダー袋など、巾着袋は児童の身近なものであり、用途によって大きさや形などを工夫して製作することができるだろう。友達の紹介を聞き、巾着袋のよさに気づいた子どもたちに巾着袋を作ることを呼びかけ、自分で作った巾着袋を生活の中で使う喜びを味わわせたいと考える。さらに、校区内にある豊橋市立家政高等専修学校（以下豊橋家政）へ見学に行き、生徒たちが手縫いをしている姿を見ることで「手縫いってすごい」「自分もあんな風になれるようになりたい」という気持ちが児童に芽生えることを期待する。ソーイングへの興味や関心が高まったところで縫い方の練習を行う。家庭科ボランティアの協力や、縫い方の大型見本を用意することで、児童が基礎的な技能を身につけられるようにする。そして、巾着袋の作り方を考える。巾着袋を製作したことがある児童にも、縫い方や作り方を改めて考えることができるよう、既製の巾着袋を分解して観察したり、分解した巾着袋を元に戻したりする活動を取り入れる。手順を学びの足跡としてノートに残すことで、児童がいつでも学習を振り返り、生活に生かすことができるようにする。そして本時では、分解した巾着袋をもとに戻した際にうまくできた点や考えたことを共有し、巾着袋の作り方の正しい手順について話し合う。観察や分解の過程で気づいたことを記したノートを振り返ったり、手順を示したふせんを見合ったりするなどして、巾着袋の作り方や作る手順を自分で「わかった」と感じることができるようにする。自分で作ることができるのだと自信がついた子どもたちは、さらにオリジナルの作品を製作したいという思いをもつだろう。そこで、最後にはオリジナル巾着袋を製作する。何を入れるための巾着袋を作ろうか、誰のために作ろうかなど、自分でずっと大切に使いたいという思いや、誰かのために作ってあげたいという思いが詰まったマイ巾着袋を製作することを目指す。

本題材を通して、手縫いのよさやもの作りの楽しさを学んだ子どもたちが、身につけた技能をこれからの生活に生かしたいという思いや、次は誰かのために作ってあげたいという思いを高める姿を期待する。

#### 4 題材構想 (12時間完了 本時9/12)

##### 裁縫道具を調査しよう① \*1

- ・入っているのは針と糸だけじゃないんだね。
- ・何に使う道具なんだろう。
- ・思ったよりもたくさん入っているんだな。
- ・道具の名前を覚えて、使えるようになりたい。

道具の名前と使い方がわかったよ。自分でも何か作ってみたいな。

##### 手縫いで何が作れるのかな① \*2\*3

- ・入学するときに給食袋を作ってもらったよ。
- ・自分で小さな袋を作ったことがあるよ。
- ・豊橋家政の文化祭で手作りのものがたくさん売っていたよ。
- ・手作りのものには、いろんな思いがこもっているんだね。

友達を作ったみたいに、巾着袋を作ってみたいな。

上手な人の作り方を見てみたいな。

##### 豊橋家政へ見学に行こう① \*4

- ・あんなに早く縫えるなんてすごいな。
- ・上手になるために、たくさん練習したと言っていたよ。
- ・巾着袋なら、ぼくにも作れるかな。
- ・手縫いだと世界にひとつの作品になるんだね。わたしも作ってみたいな。

豊橋家政の人たちみたいに上手に手縫いができるようになりたいな。

##### どういう手順で縫うのかな② \*5\*6\*7

- ・そのまま縫っても布から糸が抜けちゃうよ。
- ・まずは玉止めと玉結びができるようにしよう。
- ・縫い方には種類があるのかな。
- ・簡単な縫い方から練習しよう。
- ・なるほど。こういう手順で縫うんだね。

難しいけど、手縫いの仕方がわかったよ。できるようになってきたぞ。

いよいよ巾着袋作りだね。どうやって作るのかな。

##### 巾着袋を分解して、作り方を考えよう① \*8\*9

- ・裏返してみると、よくわかるよ。
- ・ミシンで縫ってあるのかな。違う縫い方がしてある場所があるよ。
- ・ほどいてみたらもっとくわしくわかるかな。
- ・巾着の作り方の手順がわかったよ。

一枚の布に戻ったぞ。自分でもとに戻せるのかな。

\*1 手縫いに興味をもてるよう、実際に手作りの作品を展示しておく。

\*2 身の回りの縫い物を探すことで、生活に役立っていることに気づかせる。また、手縫いの経験がある児童が作った作品を紹介し、自分たちにもできそうだという自信をもつきっかけとなるようにする。

\*3 手縫いで製作をしたことがある保護者にインタビューし、どんな気持ちで作ったのかを児童に伝えることで、思いをこめて大切に手縫いをしたいという意欲を高める。

\*4 和裁(手縫い)の授業を見せてもらったり、手縫いのよさについて話してもらったりすることで、自分も手縫いができるようにになりたいという意欲が高まるようにする。

\*5 地域のデイサービス「手しごと屋」の方々がボランティアとして入ることで、個々に応じて指導できるようにする。

\*6 児童が困った際にすぐに確認できるよう、玉止め・玉結び、縫い方などの拡大資料を各グループに用意する。

\*7 背面黒板に「お助け掲示板」を作り、縫い方のこつやポイントなどを交流することで、手縫いへの意欲を高める。

\*8 巾着袋への興味を継続するために、児童が自主学习で調べたことを掲示する。

\*9 既製品の巾着袋を観察したり、分解したりすることで、児童が自分で作り方を考えるきっかけとなるようにする。

巾着を元に戻してみよう② \*10

- ・最初はどんな縫い方がしてあったかな。
- ・縫う場所によって、縫い方を変えた方がよいかな。

自分で考えた手順で元に戻すことができたよ。  
みんなはどうやって縫ったのか知りたいな。

みんなはどうやって戻したのかな① (本時) \*11

- ・細かく縫ったら、丈夫にできたよ。
- ・ひもが通るように、縫う順番に気がつけたよ。

- ・ひもを通せなくなってしまったよ。どうすればよいのかな。
- ・縫ったあとが見えてしまって、きれいにできなかったよ。

これで巾着袋ができそうだよ。次はオリジナルの巾着袋が作りたいな。

思いのつまった世界にひとつのマイ巾着袋を作ろう③ \*12

- ・わたしは給食袋を作ろうかな。
- ・秋に野外があるから、そのときに使う小さめの巾着袋を作ろう。
- ・弟のために、カードを入れておくための巾着袋を作ろう。
- ・リコーダーの袋がぼろぼろだから、新しく作りたいな。

さっそく使っているよ。自分で作ったから、ずっと大事にしたいな。  
手縫い名人になれたぞ！お母さんにも作ってあげたいな。

\*10 振り返り、見直すことができるように、巾着袋を元に戻す際の手順についてふせんを使ってノートに記録しておく。

\*11 なかなか発言できない児童が自分の考えを伝えられるように、グループで話し合う時間を設ける。

\*12 自分が作りたい巾着袋や、その用途に合わせて材料を選ぶことも学ぶことができるように、布やひもは児童にそれぞれ用意させる。

5 本時の学習

- (1) 目標 巾着を戻す際にうまくできた点や考えた点をもとに、よりよい巾着袋の作り方について話し合い、手順を見直すことができる。 (思考力・判断力・表現力)
- (2) 準備 教師：短冊、ふせん、実物投影機 児童：ノート、元に戻した巾着
- (3) 展開

学 習 活 動	※教師の支援	評価 (方法)
---------	--------	---------

[0]

みんなはどうやって戻したのかな

【なみぬい】

- ・簡単で、速くできるから全部なみ縫いでやったよ。
- ・引っ張るとすごく隙間があいたよ。縫い目が大きすぎたのかな。
- ・縫い目をとても小さくして縫うと、なみ縫いでも丈夫にできるよ。

【返しぬい】

- ・巾着はものを入れる袋だから、本返し縫いで縫った方が、丈夫でいいよ。
- ・ひもを通すところだけ、返しぬいにすると、丈夫になって、長く使えるよ。

※これまでの授業で学習したことを確認できるように、要点をまとめた模造紙を掲示しておく。

※児童が発表しやすくなるように、始めにグループで話す時間を設ける。

【ひも通しの部分】

- ・わきの部分を上まで縫ってしまって、ひもを通す部分が作れなくなってしまったよ。
- ・わきから縫って、最後にひもの部分を縫うといいよ。
- ・ひもの太さに合わせて通す部分の幅を変えるといいよ。
- ・しるしをつけると、まちがえないよ。
- ・縫っている間に、布がずれてしまった。まち針でとめて縫うといいよ。

【表・裏】

- ・布が表のまま縫ってしまったら、売っている巾着みたいにきれいにできなかつた。
- ・裏返して縫って、もとに戻すと縫い目が中に隠れてきれいに縫うことができたよ。
- ・布の裏にしるしをつけると、まっすぐ縫えるよ。

[30]

巾着の手順を見直そう

- ・なみ縫いで全部縫ったけれど、本返し縫いの方が丈夫にできそうだからかえてみよう。
- ・ひもを通す部分を失敗してしまったから、ひもの太さを考えよう。縫う前に、ひもの分だけ折る手順を増やそうかな。
- ・見た目がきれいにならなかった原因がわかったよ。縫い始めるときには裏返しがいいんだな。メモしておこう。
- ・自分としてはうまくできたけど、もっと丈夫な巾着にするために縫い方をかえてみよう。

※巾着を作る手順をふせんで残しておくことで、入れ替えたり追加したりして簡単に手順を見直すことができるようにする。

巾着を作る手順がわかったよ。次はオリジナルの巾着を作りたいな。

[38]

今日の学習をふり返り、ノートをまとめよう

- ・友達の発表を聞いて、自分がうまくいかなかったところがわかった。
- ・巾着の作り方がわかったよ。今日わかったことを生かして、次は自分の巾着を作りたいな。
- ・うまく戻せたので、次は弟の給食袋を作ってみたいな。

話し合いを通して巾着の作り方がわかり、自分で巾着を作りたいという意欲が高まったか。

(話し合い・振り返り)